

春がやってきました！ 博物館の周りではウグイスがうれしそうに鳴いています。そろそろ桜も...かな？

★ ラインナップ ★

天文トピックス

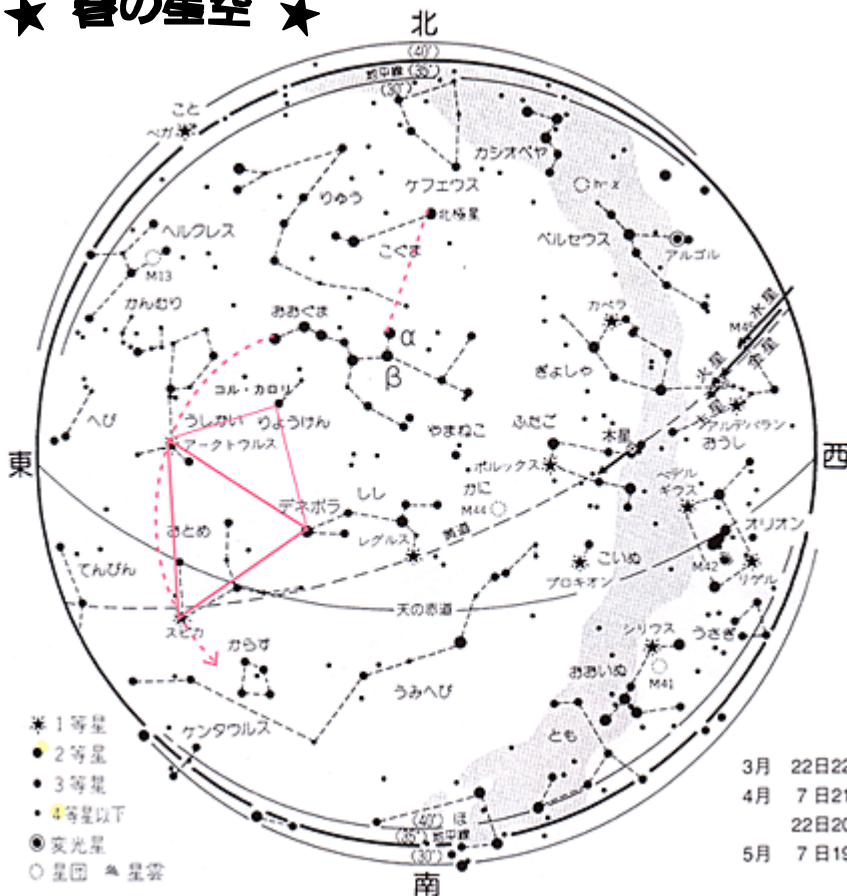
春の星空

しし座

プラネタリウムの紹介

ちょっとオススメ！ 「春分の日」 「真ん丸い虹」

★ 春の星空 ★



この季節の見ごろといえば、北斗七星。北の空低いところにあった北斗七星は、春の訪れとともにどんどん高く昇り、春の星座たちを探し出すお手伝いをしてくれます。ではまず、ひしゃくの柄のカーブにそって見ていきましょう。延ばした先にはオレンジ色の1等星 うしかい座のアークトゥルスがあります。さらに延ばすと、今度は青白い1等星 おとめ座のスピカが、そしてその先にはからす座が輝いています。からす座は小さな四角形ですが、他に目立った星の並びもないのでとても目立つ星座です。逆におとめ座は大きな星座のわりには明るい星が少なく目立ちませんが、スピカを足元にしたYの字が目印です。うしかい座は自分の牛を大熊から守るために、北極星のまわりで追いかけています。

この北斗七星からからす座にそったカーブは「春の大曲線」と呼ばれ、春の夜空の目印となっています。また流星群でも有名なしし座も、早い時間に昇ってきます。胸の部分で明るく輝く

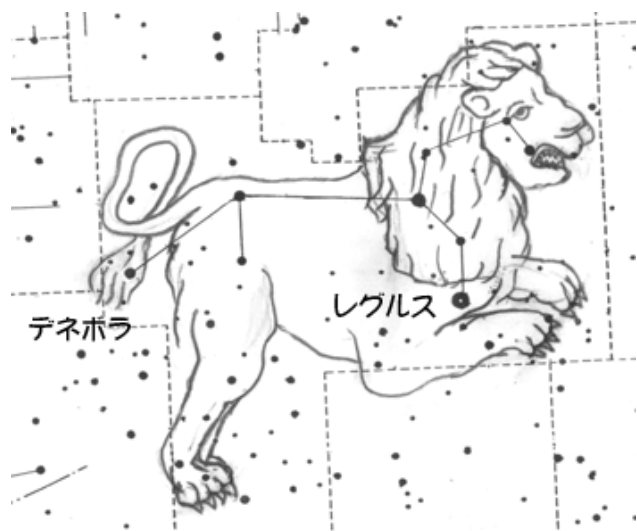
1等星がレグルス、尻尾の先で輝くのが2等星のデネボラです。このレグルスとアークトゥルス、スピカを結んでできたのが「春の大三角」で、さらにりょうけん座の星コル・カロリも加えると「春のダイヤモンド」ができあがります。東の空には、7個の星で形作られた小さな半円、かんむり座も昇ってきています。

遠くの銀河が見える？

春は銀河が見ごろです。

それは、ちょうど天の川がなく、まばらな星の間から遠くの宇宙を覗くことができるから。特に、(しし座とうしかい座の間にある)かみのけ座からおとめ座にかけては、メシエカタログに載っている明るい有名な銀河だけでも17個も見るができます。また数十から数千もの銀河が寄り集まる“銀河団”もあるので、ぜひ望遠鏡で眺めてみたいところです。このあたりは、遠くの銀河を見渡せることから「宇宙の覗き窓」と呼ばれています。

<ヘルクレスに退治された化け獅子：しし座>



ギリシャ神話によると、ギリシャ第一の勇者ヘルクレスは、アルゴスの王エウリステウスの命令により十二の冒険をすることになりますが、その最初の冒険が化け獅子退治でした。化け獅子は、大神ゼウスの神殿のあるネメアの森に住んでいました。夜も昼も歩いているのは牧場の牛や羊を殺し、人間もおそって食べていました。この化け獅子は刀や矢では傷つけることのできない不死身で、矢もこん棒も役にたちません。でもヘルクレスは勇敢に素手でくみつき、その大力でのどをしめつづけ、化け獅子の息の根をとめてしまいました。なんと化けじしをしとめるのに、3日3晩のどをしめつづけなければならなかったとか…。ヘルクレスによって退治された化け獅子は、空にあげられ「しし座」と

なりました。しし座は、春の星座の中で特に形のととのった見つけやすい星座です。6個の星がつくる「？」マークをうらがえしたような星の並びと、その東で直角三角形を形づくる3個の星を探してみましょう。そのあたりがしし座の星々です。「？」マークのとめの位置の明るい星は1等星のレグルス、点もありますよ。レグルスの下に暗い星がひとつ見えるでしょう。このあたりがししの頭と胸、三角形の並びがししのおしりにあたります。星を結んでみると、なんとなく大きなしし(=ライオン)を思い描くことができるでしょう。

さて、しし座といえば『しし座流星群』。昨年11月19日早朝には、日本でも大出現が観測され大変話題となりましたね。皆さんはどうご覧になりましたか？ その数、1時間当たり2000個とか3000個とか。すごかったですね。33年ごとに大出現するこのしし座流星群、残念ながら次回30年後はあまり期待できないと予想されています。

★ 天文トピックス ★

3/20 土星食(関東以北：岡山では見えません)

5/6 立夏・みずがめ座 星流星群極大

3/21 春分の日

5/26 半影月食(宵の東天に全国で見られる)

4/22 こと座流星群極大

6/4 金星と木星が接近(夕方の西天に並ぶ)

4/26 おとめ座流星群極大

6/11 部分日食(食始 6:41～食終 8:34)

★ ちょっとオススメ ★

“春分の日”って知ってる？

祝日の一つである《春分の日》は、「自然をたたえ生物をいつくしむ」という趣旨のもと昭和23年に制定されました。春分の日は年によって変わります。決まるのは、前年の2月1日。発表は国の機関の内閣府がおこない、官報に掲載されます。

さて春分の日は、天文学・太陽に深く関係しています。太陽が黄経0度(春分点)にきた時が春分の日。春分点とは、天の赤道と黄道(太陽の通り道)が交わるふたつの点のうち、太陽が天の赤道の南から北へ向かって横切る場所(点)のことで、天の赤経・黄経の出発点(0度)となります。この春分点は、歳差のため少しずつ西に移動しており、現在はうお座にあります。

春分の日太陽は天の赤道にあるため、真東から昇って真西に沈み、昼と夜の時間がほぼ同じになります。この日以降、昼の時間がだんだんと長くなり、反対に夜が短くなります。秋分の日、これとは反対になります。

また、春分は《二十四節気》のひとつです。二十四節気とは、太陽が春分点を通り再び春分点にもどるまでの1年を黄経にしたがって24等分し、その季節に合った名前をつけて時期の自然現象をあらわしたもので、12個の節気と12個の中気からなります。二十四節気の発祥は、古代中国の黄河中・下流地域の農業の経験から生まれたもので、日本に伝えられたのは奈良朝時代。その後、江戸時代に改良され現在にいたっていますが、陰暦での季節の区切り目とされているため、いくつか日本の気候と合わないものもあります。(陰暦については、博物館通信：秋号VOL.3を参照。)さて今年の春から夏までの二十四節気をあげてみました。その後は、カレンダーに書かれているので探してみてくださいね。

< 2002年 / 春から夏にかけての二十四節気 >

【名】	【気】	【日付】	【太陽黄経】	【由来】
春分(しゅんぶん)	中気	3月21日	0度	冬の気が去って春になる
清明(せいめい)	節気	4月5日	15度	春先の清らかで生き生きした様子
穀雨(こくう)	中気	4月20日	30度	雨が穀物を潤す
立夏(りっか)	節気	5月6日	45度	夏のはじめ
小満(しょうまん)	中気	5月21日	60度	陽気盛んになり万物がようやく満つ
芒種(ぼうしゅ)	節気	6月6日	75度	芒のあるイネ科の植物の種をまく
夏至(げし)	中気	6月21日	90度	太陽が最も北による。昼が長く夜は短い

< おまけ知識 > 「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉をよく耳にしますね。この《彼岸》とは、春分・秋分の日を中日として前後それぞれ3日間、計7日間をいいます。家庭では、墓参りなどの仏事が行われます。

真ん丸い虹；虹のかたち

みなさんは《虹》を見たことがあると思います。虹は、空気中の水滴(雲や霧など)が太陽の光を屈折する(曲がり)具合によって見えますが、その虹はどのようなかたちでしたか? よく目にするのは、地上から空へ橋のようにのびた虹。だいたい半円を描いているものではありませんか? 私もそのような虹しか見たことがなかったのですが、ついに“真ん丸い虹”と遭遇しました。「いったいどこで?」実は、地上からではなくて空の上。飛行機の中から見たのです。上空の雲に飛行機の影、その影を丸い虹が取り囲んでいました。真ん丸い虹と飛行機の影は、ちょっとの間飛んでいる飛行機に寄り添うようになってきていました。

驚きと不思議さ、そしてなによりも幸福感を感じた私...調べてみました。

この現象、高い山の頂上でも見られることから「ブロッケン現象」「ブロッケンの妖怪」または、「グローリー(光輪)」と呼ばれています。(ブロッケンとは、ドイツ国のブロッケン山のことで)

丸い虹を見ることができた好条件を詳しく説明すると、

光を屈折させる水滴(=雲)がある。

飛行機をはさんで雲とは反対側に太陽の光がある：光が強いと中心に影が現れます。

雲は影を映しだすスクリーンの役目：中心にある影の大きさは、雲と見ている人・飛行機との距離で決まり



< 雲にうっすらと映る飛行機 >

ます。山で見た時には自分の影がとても大きく映り驚くそうですが（実は妖怪の由来でもあります）、手を振って影も動いているのを見て自分の影だと確信するそうです。

このような好条件が揃うのは難しいかもしれませんが、高い山に登った時や飛行機の窓側席に座れることができたなら、ぜひ窓の外にも目を向けてみてください。ひょっとして！！

今回私が見た真ん丸い虹、当館のホームページ：ギャラリーにも載せていますのでぜひご覧ください。生写真は博物館にあります。

さて虹を簡単に作る方法について。霧吹きに水を入れて太陽を背にして霧を吹くと虹が作れます。夏、庭の水まきをしている時に見たことはありませんか？ あと夕立のあとも虹がでる絶好のチャンスです。

虹色は、一般に日本では7色（紫・藍・青・緑・黄・橙・赤）ですが、外国（欧米）では6色（藍がない）や5色（藍と紫がない）と言われていています。これは文化の違いによるものだそうです。

虹については、他にも2本の虹（ダブルレインボー）・月の虹（ムーンボー）・太陽の虹（暈）などいろいろあるようです。また虹の続編が書ければいいなと思っていますので、みなさんも情報をお寄せください。



プラネタリウム春番組

“^{そら}夜空 見上げれば”

「バラ色の星が見える！」夕空に輝く赤い光を見て大騒ぎするお父さんと、それをからかう子供たち。普段空を見ることがなかった親子が、これをきっかけに空を見上げるようになります。

空が暗い田舎の星空の楽しみ方、そして明るい都会の夜空でも、まだまだ見えるものがたくさんあることを改めて感じさせてくれる番組です。親子の関西弁でのやりとりも“めっちゃ楽しい”ですよ！

<3/9（土）～ 6/2（日）まで放映中！>

<編集後記>

“わかりやすい”を目標に書いているこの原稿…。書き終えて一言「ふうっ」まだまだ勉強の余地アリ！次号のネタ探しが始まる…。今の楽しみはムース君との再会！！ Satomi

桜の開花予想も発表されました。夜空もだんだん春の装い！冬の星座たちが西に傾き、その中には木星がひときわ明るく、土星も火星も周りの星に劣らず明るく見えています。そして金星が宵の明星として加わりますよ…。 M.Y

2月18日博物館の花壇のすみで、つくしを1本見つけました。とてもかわいかったですよ。去年より大分早いような得した気分でした。これが発行される頃には土手などにいっぱい出ていることでしょうね。一番好きな季節がやってきました。うれしいなー。 H.I

のんびりやの私は、身辺が忙しくなる春はちょっと苦手。でも暖かいお日様はうれしい。お花見行こうっと。 Yumi

この博物館通信は、岡山天文博物館が作製しています。次回夏号は、6月発行予定です。

岡山天文博物館 浅口郡鞆方町本庄3037-5 TEL・FAX 0865(44)2465

休館日：月曜・祝日の翌日

博物館ホームページ <http://www.rweb.ne.jp/astro/index.html>

リニューアルしました！